

出題分析		
試験時間 60 分	配点 150 点	大問数 4 題
分量 (昨年比較) [減少 同程度 増加]		難易度変化 (昨年比較) [易化 同程度 難化]
概評 ——出題の特徴・特記事項		
<p>〔I〕は古代～現代の雑題、〔II〕は鎌倉時代～江戸時代の仇討ちと士族反乱、〔III〕は史料問題で、A～D江戸幕府の鎖国政策、E・F日米安全保障条約について、〔IV〕はA第一次世界大戦～現代までの重化学工業の発展、B現代の経済成長政策が出題され、40問中14問が現代史であった。</p> <p>〔I〕の正誤判定問題では、例年通り歴史的事象に関する正確な知識が要求された。〔III〕の史料は、いずれも史料集に掲載されているような史料だが、現代史である新旧の日米安全保障条約まで目を通させていたかどうかで、差がつくだろう。〔IV〕も現代史を中心に問われ、経済史の幅広い学習の成果が試される問題構成であった。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
〔I〕	古代～現代の歴史的事象の正誤判定	1. a. 弥生時代中期の甕棺墓からは、中国製の鏡などの副葬品が確認されている。 b. 分布に地域性のある銅劍などはいずれも実用ではない祭器であった。 2. a. 推古天皇は敏達天皇の后であったうえ、皇極天皇と同一人物ではない。 b. 改新の詔では、田荘・部曲も廃止とした。 3. a. 寺田や神田は不輸租田であった。 5. b. 初めて徳政令が出されたのは、嘉吉の徳政一揆のこと。 6. a. 上杉憲実は、室町幕府に協力して足利持氏を倒した。 7. a. 紫衣の勅許について言及しているのは、禁中並公家諸法度である。 b. 中国との貿易も長崎に限られるようになった。 9. a. 正院は行政機関、左院は立法機関。 b. やや細かいが、陸軍省は内閣に属した。 10. a. 後半の説明は幣原内閣ではなく、東久邇宮稔彦内閣の説明である。	標準

設問別講評			
〔II〕	鎌倉時代～江戸時代の仇討ちと士族反乱	ほとんどが基礎的な知識を問う問題であった。 1. 時期を混同しやすく、日頃の学習の成果が問われた。5.『増鏡』は南北朝時代に成立した。6. 京都守護は六波羅探題の誤りである。7. アの「守護在京制」と迷ったかもしれないが、幕府所在地への奉公という点で「類似」していると判断しよう。ウの関東の大名は半年交代であった。8. 新井白石を登用したのは、徳川家宣・家継である。10. 江藤新平は佐賀の乱をおこした。	標準
〔III〕	A～D江戸時代の鎖国令, E・F新旧日米安全保障条約	前半部分となるA～Dでは、頻出史料を用いて頻出事項が問われた。一方で、後半部分となるE・Fでは、戦後史の細かい知識も問われたため、前半部分はすべて正解しておきたい。1～3. 基礎的な知識が問われた。4. 史料文を落ち着いて読み、適切に判断したい。8. 新安保条約に基づき、日米行政協定に代わるものとして日米地位協定が結ばれた。9. Fについて細かい選択肢が散見されるが、旧安保条約と吉田茂内閣、新安保条約と岸信介内閣と、それぞれ条約と内閣をセットにして正しく把握できていれば、消去法で解答可能である。	やや難
〔IV〕	A第一次世界大戦～現代までの重化学工業の発展, B現代の経済成長政策	1. 大戦景気の時期は、大規模な水力発電事業が展開された。5. 第一種、第二種兼業農家の区別に迷っただろう。7. 減反政策は1970年から。10. 消去法で解答したい。	標準

合格のための学習法

例年通りに幅広い時代から出題された。例年全40問中、近現代史が全体の半分近くを占め、今年は現代史が大問2題にまたがった。また、正誤判定問題では、いずれも注釈を含む教科書や史料集等の記述を参考にしたと思われる設問が散見された。こうした出題に備えて、対策がおろそかになりがちな近現代史については、特に早めの対策をしておきたい。全時代を通じて教科書をベースに、教科書の注釈・用語集・史料集・図説資料集で知識を補ってほしい。この時、戦後史では特に意味を考えながら読むとよい。また、史料問題の演習では過去問を用いて史料の読解に慣れておき、時間配分に十分注意しながら高得点を目指したい。

代々木ゼミナール